



同僚性の上に成り立つ授業

～イメージワークによる授業の共有～

はじめに

特別支援教育は、従来からチームによる教育ということが言われてきました。特に特別支援学校では、複数の教師によって授業が行われるということから、教師間の連携や協力の問題が常に課題として取り上げられてきました。つまり授業の成立が、授業を共同して取り組む教師間の連携により左右されるということでもあります。授業は、個々の教師が持つ指導力と相互に連携していく力の二つの条件で成り立つと私自身も考えてきました。

二つの学級の違い

今までの経験の中で次のような状況を何度となく見てきました。

2学級で構成されている学年の話です。一方の学級は、配慮をする点が多い児童が複数在籍するというので、特別支援教育に関する専門性の高い教員3名で担任をしていました。もう一方の学級は、説明や指示を受け入れて行動することができる児童がほとんどということで、専門性については一般的な3名の教員で担任をしていました。結果から言えば、後者の3名の教員で担任する学級が個々の児童の力を引き出し、教育的な効果を十分に上げることができました。それは障害の程度が違うのだから当然という考えも出てくるとは思いますが、二つの学級で決定的に違っていたのが、「同僚性」でした。専門性の高い教師集団は、自分の考える方法論をお互いが一方的に主張し、相互に聞き合い、学び合うということを行ってきませんでした。ですから、授業は常にぎくしゃくしていました。一方の教師集団は、児童生徒の課題や授業の方法、教材づくりをお互いが理解できるまで話し合っ授業を行っていました。そのような関係性の中で必然的に身に付いたのが、教師相互の信頼だったようです。相互の信頼がない論議は、他者批判になってしまい、示唆に富む発言内容であっても受け入れることは難しいということがあります。

個々の教師が専門的な力量をしっかり持つていくことは必要です。しかし、それと合わせて教師組織として授業にあたるという強い意思を持ち、相手の考えを受け入れ、一致点を見いだしながら最善の方法を選択してから授業に臨むという姿勢を持つことが非常に大切だといえます。



同僚性を育む一方法 ―授業のイメージワーク―

それでは、どのようにして同僚性を構築していけば良いのかということですが、「授業のイメージワーク」を中心においた方法をご紹介します。「授業のイメージワーク」という言葉は、千葉大学教授太田正己先生が「特別支援教育のための授業力を高める方法」の中で使われているものですが、授業の導入段階から、展開、まとめ段階までの、教師の説明、支援方法、児童の発言、行動等をイメージしていくというものです。当然、ここでいうイメージワークは教師個々には従来から行っているものです。私は、このイメージワークを教師集団で行っていくことを勧めたいと思っています。

教育実習生から学ぶ

教師集団で行うイメージワークの重要性に気付かせてくれたのが教育実習生です。教育実習生は、実習期間中に指導案を作成しての授業を数時間行います。これらの授業には、当然、担任は入らず、複数の実習生で授業を行っていきます。

授業前日のことでした。職員室からある教室に視線を向けると、実習生が数人動いている様子が見えてきました。何をしているのか、教室まで行くと、次の日の授業を主指導者、副指導者になって授業の展開を追いながら打ち合わせをしていました。教室の後ろに座ってその様子を見てみると、「いまの説明で分かるかな？」の確認に対して、他の実習生が「丁寧にしましょうと言っていたけど、子どもたちにはもう少しはっきりとした基準があるんじゃないのかな」と改善の方法を示したり、実際の授業で使う道具を操作したりしながら、「ああでもない」「こうでもない」というやりとりをしながら授業の打ち合わせをしていました。まさにこの実習生同士のやりとりが、「授業のイメージワーク」そのものでした。授業が終わった後、実習生に対して「事前の打ち合わせをどうだった？」という質問をすると、「指導案は一生懸命に書いたつもりでしたが、実際に動いてみると新たな気付きがあり、事前の打ち合わせが、授業を改善する上で大切なことだと思いました」という答えが返ってきました。

「授業のイメージワーク」を同僚性構築に生かす

実習生の打ち合わせを見ていて、もしかすると今の学校に足りないのはこれかもしれないという思いが強くなっていきました。授業後の多忙さは確かに大きいと思います。毎日とはなかなかいかないと思いますが、どうにか時間を捻出して一年間継続してみたいかがでしょうか。教師集団で「授業のイメージワーク」を行うということは、授業についての相互確認だけに止まらず、お互いの考え方を出し合い、思いを語ることから、教師自身の障害者観や指導観を共有していくことができる場ともなります。また、教材づくりにおいても児童の特性等を加味してということになるので、各教師が児童をどのように理解しているのかを確認することにもつながると思います。

同僚性とは、日々のやりとりの積み重ねによって初めて形成されるものであり、お互いが職場の中で認め合っていくことからスタートしていくものだと考えます。その意味で「授業のイメージワーク」が一つのきっかけになるのではないのでしょうか。

参考文献 「特別支援教育のための授業力を高める方法」太田正己 黎明書房

(特別支援教育部長 高橋章二)

講座番号・講座名		期日	定員	内 容
【C304101】 肢体不自由児の 理解と支援研修講座		11/2 (水)	30	○授業参観「肢体不自由児の教育の実際」 ○講義「授業づくりにつなげる 実態把握や目標設定について（仮題）」 【福岡教育大学 講師 一木 薫】
【C304201～C304203】 発達障害研修講座		6/17 (金)	140	中学校・高等学校の生徒に焦点を当てた内容 ○講義「自閉症スペクトラムの子どもたちが 学校教育の場で示す特徴について（仮題）」 ○講義・演習「中学校・高等学校の生徒に 焦点を当てた理解と支援について（仮題）」 【川崎医療福祉大学 特任講師 重松 孝治】
		7/26 (火)	120	小学校・中学校に在籍する児童・生徒に焦点を当てた内容 ○講義「行動分析学の基礎的な内容について（仮題）」 【日本行動分析学会 理事 杉山 尚子】 ○講義・演習「行動の分析と解決のための支援について（仮題）」 【関西学院大学 教授 米山 直樹】
		8/5 (金)	70	二次障害のうち「非行」をテーマとした内容 ○講義「社会から逸脱してしまった子どもたちが 抱えている苦勞についての理解を深める（仮題）」 【宮崎少年鑑別所 所長 細井 保宏】 ○ワークショップ「矯正教育の現場で行われている 指導の実際について（仮題）」 【加古川学園 法務教官 井上 慎】
【C304301】 自立活動研修講座		8/11 (木)	100	○講義「自立活動の指導とは（仮題）」 【独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 井上 昌士】 ○実践発表 ◇「特別支援学校の自立活動の実際（仮題）」 ◇「特別支援学級の自立活動の実際（仮題）」
【C304401】 アセスメント研修講座		7/8 (金)	80	主に通級指導教室や特別支援学級を担当する先生方を対象とした 発展的な内容 ○講義「アセスメントとは何か、 どのように学習支援につなげるか（仮題）」 ○講義・演習「アセスメント情報をもとに、 どのように学習支援をしていくか（仮題）」 【筑波大学大学院 教授 前川 久男】
【C304501 ～C304503】 特別支援教育 授業づくり 研修講座	特別支援 学級	7/27 (水)	100	○講義「特別支援学級における授業づくり（仮題）」 【独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 菊地 一文】 ○実践発表「特別支援学級における授業実践（仮題）」
	通常の 学級	8/2 (火)	120	○講義「特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり（仮題）」 【独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 研究員 伊藤 由美】 ○講義・演習「特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり ～小・中学校の国語科の実践～（仮題）」 ○説明「『アセスメントシート』について（仮題）」
	特別支援 学校	8/24 (水)	100	○講義「特別支援学校における授業づくり（仮題）」 【独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 井上 昌士】 ○実践発表「特別支援学校における授業実践 ～教科別・領域別の指導及び教科等を合わせた指導～（仮題）」
【C304601】 特別支援教育 教育相談研修講座		8/3 (水)	100	○講義「特別支援教育における教育相談の在り方（仮題）」 ○講義「障害のある子どもの保護者・本人支援（仮題）」 【パームこどもクリニック 顧問 藤井 茂樹】
【C304701】 就学前 特別支援教育研修講座		7/29 (金)	100	* 幼稚園・保育所の先生方を対象とした研修講座 ○講義「発達障害の特性理解 ～幼児期に見られる特性について～（仮題）」 ○講義「特性に応じた支援 ～幼児教育の場面で必要な支援について～（仮題）」 【ライフサポートこはうす 所長 桑原 綾子】 ○実践発表「就学前における特別支援教育の取り組み（仮題）」